令和８年度　障がい者支援施設　松山福祉園

松山市地域連携推進会議　会議録

（ホームページ公表用）

日時：令和8年11月12日(木)9：50～11：40

場所：(説明)障がい者支援施設　松山福祉園　相談室

出席者：堀江地区民生児童委員（権現地区担当）　Ｉ　様

松山市役所　松山市障がい福祉課　担当　Ｍ様

福祉・経営に知識を有する方　　Ｏ様

（他社会福祉法人　管理者）

松山福祉園家族会　家族会会長　　Ｔ様

松山福祉園　利用者代表　　Ｈ様

松山福祉園　利用者代表　　Ｋ様

松山福祉園　西山　裕一（園長）

石丸　雄策（係長）

五十嵐　元（主任）

高原　惇　　（主任）

森岡　玲奈　（生活支援員）

議案:①管理者挨拶

②参加者紹介

③施設の概要・活動内容等について

④施設案内(すまいの場・はたらく場)

⑤ 意見交換会

⑥ 閉式

内容:

① 松山福祉園の概要について

テーマ:『働く・過ごす・つながるを大切に笑顔あふれる毎日をサポート』

② 松山福祉園での生活の様子について

テーマ:『1 人ひとりの笑顔が輝く暮らし』

③ 松山福祉園の地域交流について

テーマ:『地域とつながり、共に暮らす』

④ 地域移行に向けた取り組みについて

テーマ:『本人の『やりたい』をかなえる』

■松山福祉園 地域連携推進会議

施設運営・サービスの状況

松山福祉園は昭和 57 年 4 月、定員 50 名の知的障害者入所授産施設として開設。平成 2 年に定員 10 名の福祉ホーム、平成 4 年にのぎく生活寮を開設し、平成 24 年に障害者支援施設の新体系へ移行、平成 30 年に就労定着支援事業を開始したと説明された。開設以来、198 名が施設から地域生活へ移行している。

現在の定員は、施設入所支援 40 名、生活介護 30 名、就労継続支援 B 型 20 名、短期入所 2 名、日中一時支援 6 名、共同生活援助 26 名。松山福祉園全体で約 50 名の職員が支援にあたっている。

令和 7 年度から生活介護の定員を段階的に拡充し、令和 8 年 7 月に 30 名とした。利用者の高齢化・重度化への対応として、医療連携、健康管理、日常生活の支援体制の充実が課題として挙げられた。

日中活動は、配食、製菓製パン、鉄工、各種製品製造、療育の各班で実施。食事、健康管理、余暇、外出などの生活支援も行っている。活動や作業への参加が難しい利用者も、無理なく安心して過ごせることを重視している。

施設入所者は定員・現員とも 40 名との説明。就労継続支援 B 型は定員 20 名に対し現員 19 名、生活介護は最終的に定員 30 名に対し現員 34 名との説明があった。日中活動は利用状況の変動があるため、契約者数を定員より多くしており、国の基準を満たしているとの回答があった。

■地域生活への移行と本人の希望

令和 8 年 4 月 1 日時点で施設入所者 40 名に希望する生活場所を確認した結果、グループホーム 11 名、一人暮らし 4 名、家族との生活 1 名、施設生活の継続 24 名。地域生活を希望する人が約 4 割、施設生活の継続を希望する人が約 6 割と説明された。本人の希望を丁寧に確認しながら、利用者やご家族の希望に沿った地域移行を進めていきたいとの報告があった。

令和 8 年度 10 月末までにグループホームへ 4 名が移行し、一般就労につながった人は 5 名。新たに施設入所を開始した人数は 5 名。令和 7 年度にはグループホームへ 2 名、令和8年度（10 月現在）4 名が移行したとの報告もあった。

今後の地域移行計画は検討中の案として、令和 9 年度に 3 名、その後も段階的に移行を進める考えが示された。次の年度以降は、計画的に移行の人数が示された。移行にあたっては本人の希望、生活能力、健康状態、受け入れ先の環境を確認する必要があるとされた。

グループホーム移行に向け、洗濯や買い物などを施設で経験し、自立した生活に必要な力を身につける支援を実施。店舗ごとに異なるセルフレジや小銭の計算が難しい場合には、個々に応じた支援・工夫を行っている。

グループホームでは、居室の掃除やバイタル測定などを本人が行う一方、世話人や施設職員が状況を確認し、必要に応じて支援する。就労後の生活リズムや職場の人間関係による負担にも、ホーム職員と施設の巡回スタッフが対応し、本人の困りごとや希望を職員間で共有して次の支援につなげている。

利用者代表からは、自立に向けて頑張りたいこと、掃除が好きで実践したいこと、仲間と仲良く過ごしたいことが語られた。施設側は、利用者間のトラブルへの介入や日々の振り返りを通じて、相談しやすい環境づくりに取り組んでいると説明した。地域推進会議に出席されている両名は利用者自治会「勇気の会」の会長・副会長を務めている。

地域生活への移行は、本人の「やりたい」ことや好きなことを支援につなげる取り組みとして紹介された。趣味や希望が就労継続の動機になる場合があり、本人の意向に沿って経験の機会を広げている。

■地域交流・見学後の意見

堀江地区民生児童委員（権現地区担当）　I　様

権現地区の地域行事ではパンやクッキー製品の販売等、大変、お世話になっています。これからも福角会祭など、この地域をさらに盛り上げていただきたい。よろしくお願いいたします。

松山市役所　松山市障がい福祉課　　M　様

４月より障害福祉課に配属され、この経験がとても勉強になりました。

これからの業務に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

風早偕楽園　北条あかつきの郷　　O　様

　自分の施設と比べることが出来て良かったです。生活介護(ユートピア班)、利用されている方が大変楽しそうでした。また、施設の専門的な作業の様子を見させていただき、勉強になりました。地域の中に施設を置かしてもらっている振り返りが出来ました。ありがとうございました。

松山福祉園家族会　会長　　T　様

『生活の場』『働く場』どこを見ても、清潔感がありました。これからも息子のことをよろしくお願いいたします。

【地域連携推進会議写真】












ご家族の皆様へのお願い


ご家族の皆様へのお願い


10:44



















